

## クロハラアジサシ（カモメ科） 全長26センチ

9月22日、大浦沼に珍しいクロハラアジサシ1羽が飛来した。

沼の水面は一面ハスで覆われていたが、一枚の葉の上でクロハラアジサシがひっそりと休んでいた。2016年と2017年に飛来し、それ以来しばらく観察されていませんでした。大浦沼には6年ぶりで3回目となった。

名前の由来である黒い腹は夏の期間であり、いまは白い腹となっている。旅鳥として日本を經由したもので、長居はしないと思われます。



ハスの葉で寛ぐ。足には標識と思われるものが光っている。

ハスの葉で休んでいたクロハラアジサシは、一旦飛び上がると沼の上空を旋回し始めた。何度か水面すれすれに飛びながら餌を探しているようだ。

間もなく同じ場所に戻って来た。葉の上で休んでいる所をフィールドスコープで眺めたら、両脚に足環標識のようなものが着いている。きらりと光ることからアルミ製でないかを思われたが、距離が遠いので番号や記号などは判別できません。



頭部は黒くクチバシは赤みが掛っている。



両翼を広げてくれた。

沼には冬鳥のコガモが100羽ほど休んでいるが、マガモとチュウサギはよく見られる光景です。

この日は夕方からの撮影であったので、少し薄暗くなってきた。ここで撮影を切り上げ翌日に訪れることにした。

翌朝、辺りを探し回ったがクロハラアジサシの姿は見当たりません。既に越冬地を目指して旅立ったことでしょうか。数少ない旅鳥に足環が付いていることは珍しいことなので、野鳥の会県支部に報告しました。



両脚の付け根に白いものが。



2017年9月に撮影。夏羽から冬羽に移行中。  
お腹は白黒のまだら模様で、頭は白っぽい。